

研究データエコシステム 東海コンソーシアム

松原 茂樹

名古屋大学 情報基盤センター

自己紹介

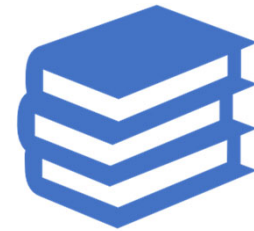
松原 茂樹（まつばら しげき）

名古屋大学情報基盤センター・教授
（学術情報開発研究部門）

- ・ 附属図書館研究開発室
- ・ 情報学研究科知能システム学専攻

専門は **自然言語処理**。最近は、

- ・ データリポジトリの自動生成
- ・ 学術論文の貢献度評価, など



事例報告の内容

- 研究データエコシステム東海コンソーシアムについて



事例報告の内容

- 研究データエコシステム東海コンソーシアムについて



大学における研究データマネジメント



研究データの
サイクル

研究データマネジメント (RDM)

- 研究で使用/生成された情報を適切に取扱うこと

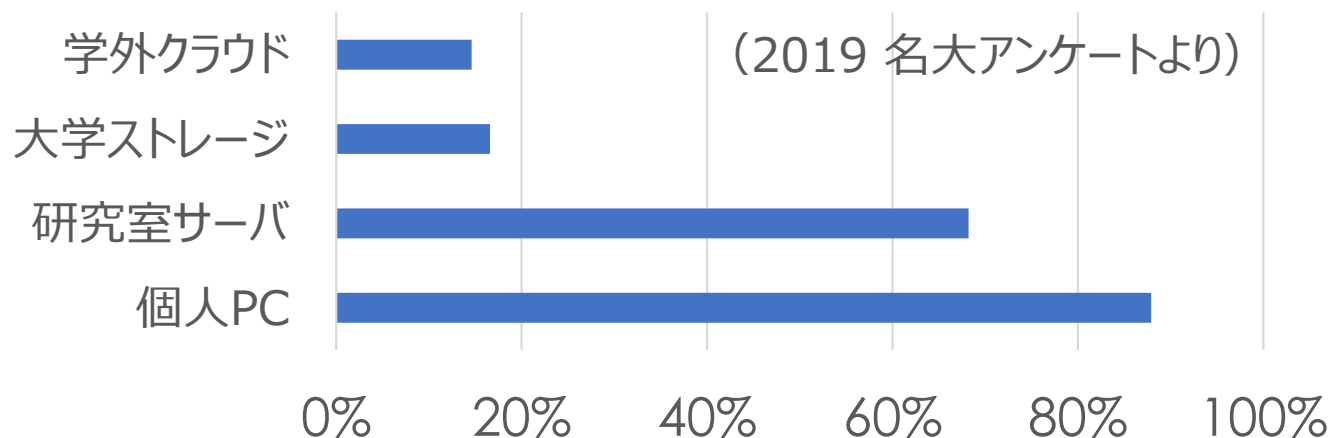


誰がRDM基盤を整備する？

(研究者 / 研究Gr / 大学 / . . .)

研究データをどこに保管している？

(2019 名大アンケートより)



研究データガバナンスの構築

大学における 研究データマネジメント

現状 研究者/研究Grが設けた基盤
(システム, ルール) で推進

今後 大学が提供する基盤
で構成員がRDMを推進



構成員が**安全**かつ**効率**よく研究し大学の**研究力**を高める仕組み
(= **研究データガバナンス**)

大学の研究データガバナンス：これまで

- 現存するルール/ポリシー
 - 研究データ保存の学内規程

研究資料等（試料及び標本を除く。）の保存期間は、原則として、当該論文等の発表後10年間とする。

○名古屋大学における研究上の不正行為に関する取扱規程（第6条）

- オープンアクセスポリシー

名古屋大学は、本学に在職する教職員による学術論文（共著を含む。）を可能な限り、広く無償で公開する。

○名古屋大学オープンアクセスポリシー

研究データガバナンス構築に向けた指針


統合イノベーション戦略推進会議

データポリシー策定（2025まで）


機関リポジトリへのデータ収載

研究データ人材・支援体制の整備

研究データストレージの提供



公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方（2021）



論文等のオープンアクセスについて（論点とりまとめ）（2023）

科研費 令和6年度交付分

DMPの作成（2024から）

G7 科学技術大臣会合

即時OA（2025から）

事例報告の内容

- 研究データエコシステム東海コンソーシアムについて



研究データエコシステム構築事業 2022-2026

研究データ基盤高度化チーム **NII** リーダ機関
NII Research Data Cloudを
7つの側面から機能拡張

研究データ基盤の機能実装

活用

コード付帯機能

データ・プログラム・解析環境の
パッケージ化と流通機能を提供し、
研究成果の再現性を飛躍的に向上

信頼

データプロビナンス機能

データの来歴情報の管理から利用
状況を把握でき、データ公開へ
のインセンティブモデルを提供

蓄積

セキュア蓄積環境

安全で強固なデータの保存・保護機
能を有する超鉄壁ストレージを提
供し、機微な情報も安心して保全

セキュア蓄積環境



データガバナンス機能 管理

計画に基づきデータ管理等を機械的に支援し、DMPをプロジェクト管理に不可欠な仕組みへと変革

キュレーション機能 流通

専門的なキュレーションを実践できるエコシステムを構築し、データ再利用の促進に寄与

秘匿解析機能 保護

秘密計算技術で機微な情報も安心して解析できる環境の提供で、新しいデータ駆動型研究の世界を開拓

人材育成基盤 育成

RDMに必要なスキルを学ぶ環境を提供し、全ての研究者を新しい科学の実践者へと育成

プラットフォーム連携チーム

理化学研究所
RIKEN

リーダ機関

- ・ 機関内サービス等とNII RDCの連携機能の整理と設計
- ・ 計測機器等からの大量データを効果的に管理するための要件整理と機能開発
- ・ 管理対象となるメタデータの設計と実証
- ・ 関連する高度化機能との仕様調整と共同開発

融合・活用開拓チーム

東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

リーダ機関

- ・ 異なる分野間でのデータ活用やデータ連携に発展する取り組みを精査
- ・ 異なる分野間でのデータ活用やデータ連携に関する具体的なユースケースを創出
- ・ ユースケースをまとめたツールキットの作成とそれを用いた広報活動

ルール・ガイドライン整備チーム

名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

リーダ機関

- ・ 研究データの活用に適した機械可読データの統一的な記述ルール設計
- ・ 研究データの公開に必要な要項や作業フローの整備
- ・ 研究データを適切に取扱うための指針のまとめ
- ・ 学内整備のための事例形成

人材育成チーム

大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

リーダ機関

- ・ 人材育成を主とした研究データ管理体制の構築を推し進める学内組織構築の事例形成
- ・ 研究データ管理人材に求められる標準スキルに関する検討
- ・ 研究データ管理人材育成のためのカリキュラムの作成、オンライン学習コースの整備

基盤の活用に係る環境整備

中核機関群の代表からなる運営委員会が全体を統括し研究データエコシステムの全国展開に向けて共同実施機関を随時拡大

ルール・ガイドライン整備チームの活動

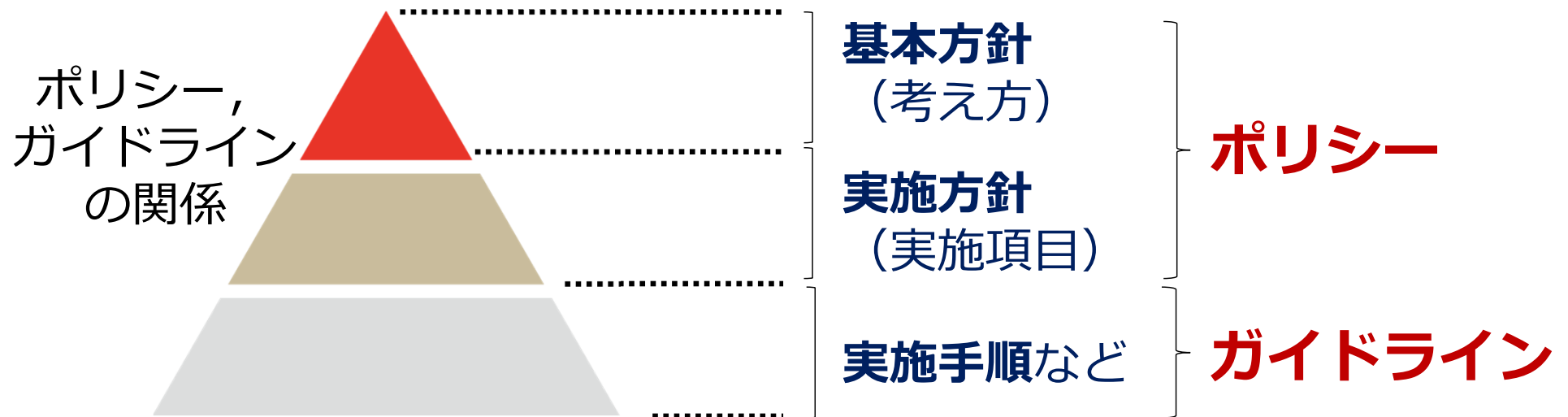
研究データ取扱いに関わる
ポリシー, 規程,
手順, ガイドライン,
スキーマ, 要項,
フロー, 基準など

準備
2022

整備・公開
2023-2024

活用・展開
2025-2026

・データポリシーの策定と展開



1. データポリシー (基本方針) 策定の**方法論**を提供
2. データポリシー (実施方針) を基本方針をもとに策定し展開

研究データエコシステムの地域展開（1）



第1回 東海地区 学術データ基盤セミナー 2022/12/02

図書館、研究推進、教育推進、産学連携、大学IR、情報基盤などの担当者が集まり、大学の研究データ管理のあり方を議論

- **トピック**：行動計画、データ管理教材、データアクセス
- **参加者**：約**100**名（東海地区から**18**機関）
※ 対面参加者との意見交換会を開催

（情報交換会の参加者の意見【抜粋】）

- 研究データマネジメントの理念や必要性は理解するが推進するための**新たな体制**の整備は難しい
- RDM推進の**資源（人材/システム/資金/ノウハウ）**が不足しており、単一の大学での推進は難しい

RDM推進資源を相互利用する**大学連携**の可能性

研究データエコシステムの地域展開（2）



第2回 東海地区 学術データ基盤セミナー 2023/07/24

・トピック：体制整備、ポリシー、研究データ基盤

データポリシー策定までのタイムテーブル

2021 11月	2022 1月	2022 6月	2022 9月	2022 9月	2022 11月	2022 12月	2023 1月	2023 2月	2023 3月	2023 4月
研究データ管理検討WGの設置	第1回WG（設置の経緯、ミッションアンケートのたたき台 情報共有）	アンケート調査（研究データ管理・公開等に関する） 1か月	第2回WG（研究データポリシー（案）の作成）	メール審議（研究データポリシーの補足・解説（案）の作成方針）	小WGで議論（研究データポリシーの補足・解説（案）の作成）	第3回WG（研究データポリシーの補足・解説（案）の承認）	学術研究会議にて承認（研究データポリシーおよびその補足・解説の案）	学長へ説明↓第4・5回WG（法規チームなども確認し、最終案完成）	学内の種々の会議にて、研究データポリシー承認	研究データポリシー公開

先行する大学の研究データポリシーの比較調査

先行する6大学(京都大学、名古屋大学、東京工業大学、東北大学、慶応義塾大学、神戸大学)の研究データポリシーおよび解説文書を比較調査し、参考とした。

愛媛大学の事例

<http://hdl.handle.net/2237/0002006771>

同志社大学の事例

<http://hdl.handle.net/2237/0002006770>

・参加者：約**200**名（東海地区から**24**機関）

（情報交換会の参加者の意見【抜粋】）

- ・データポリシーを作り上げるには、多大な知識と時間が必要
→ ポリシー策定の**知識とノウハウの共有**は効果的

事例報告の内容

- 研究データエコシステム東海コンソーシアムについて



研究データエコシステム構築の機関連携



研究データエコシステム東海コンソーシアム 2023/12 ~

【目的】

東海地域の学術機関が連携し
研究データエコシステムの
整備、普及、利用促進



- 会員機関の懇談会開催
- セミナーの開催
- 支援チームの派遣
- RDM資源の共用
- 成果の全国展開・普及

コンソーシアムの概要

【活動内容】

- 学内**体制整備**，**データポリシー**策定等の情報交換
- RDM推進ノウハウに関する**セミナー開催**
- 研究データマネジメント推進支援チームの派遣
- データ基盤、データ人材、RDM教材等の**資源共用**
- 地域内の事例や成果を**他地域や全国に展開**，など

【活動期間】

- 2023年度～2026年度

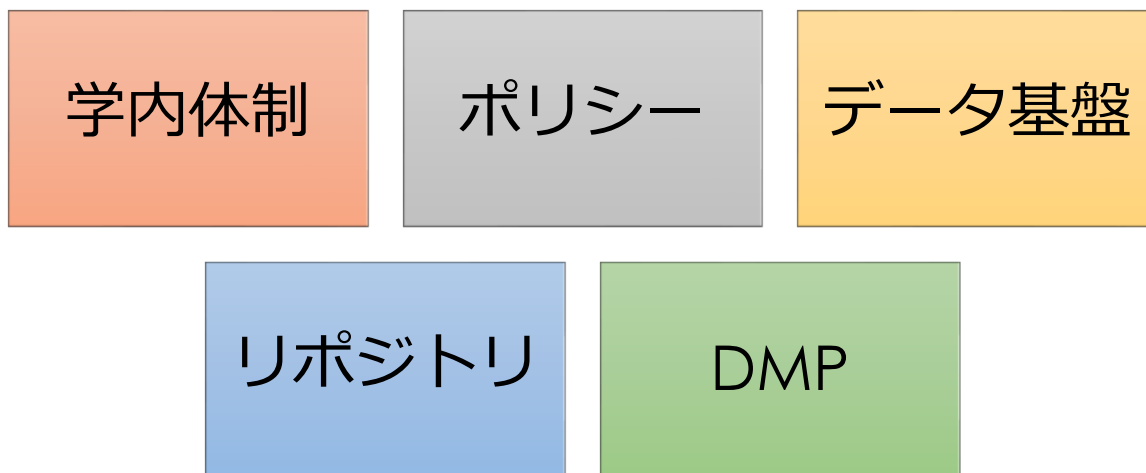
【総会】

- 2023年度総会（＝設立総会）
12/6（水）15:00～@ウインクあいち

【事務局】 名古屋大学情報連携推進本部

コンソーシアムの活動：RDM資源の共有と展開

- 情報交換会，セミナー（知識・事例の共有）



- RDM推進チームによる支援（人材・成果の共有）

- データポリシー策定支援
- FD に向けた講師派遣
- 学内アンケート実施、など

ポリシー項目	該当数
目的	◎
データの定義	◎
適用範囲	△
原則	△

アンケート実施
ポリシーの分析と利活用

「大学における研究データ管理に関するアンケート（雛形）」の公開について

当面の活動予定

- 国立大学図書館協会東海北陸地区研修会・共催（11/21）
 - コンソーシアム意見交換会，このあと開催
- コンソーシアム第1回セミナー（12/6）
 - 外部講師による講演×2

新たな時代における大学デジタル基盤の新潮流～AI Empowering Bright Academia～

大学ICT推進協議会 2023年度 年次大会

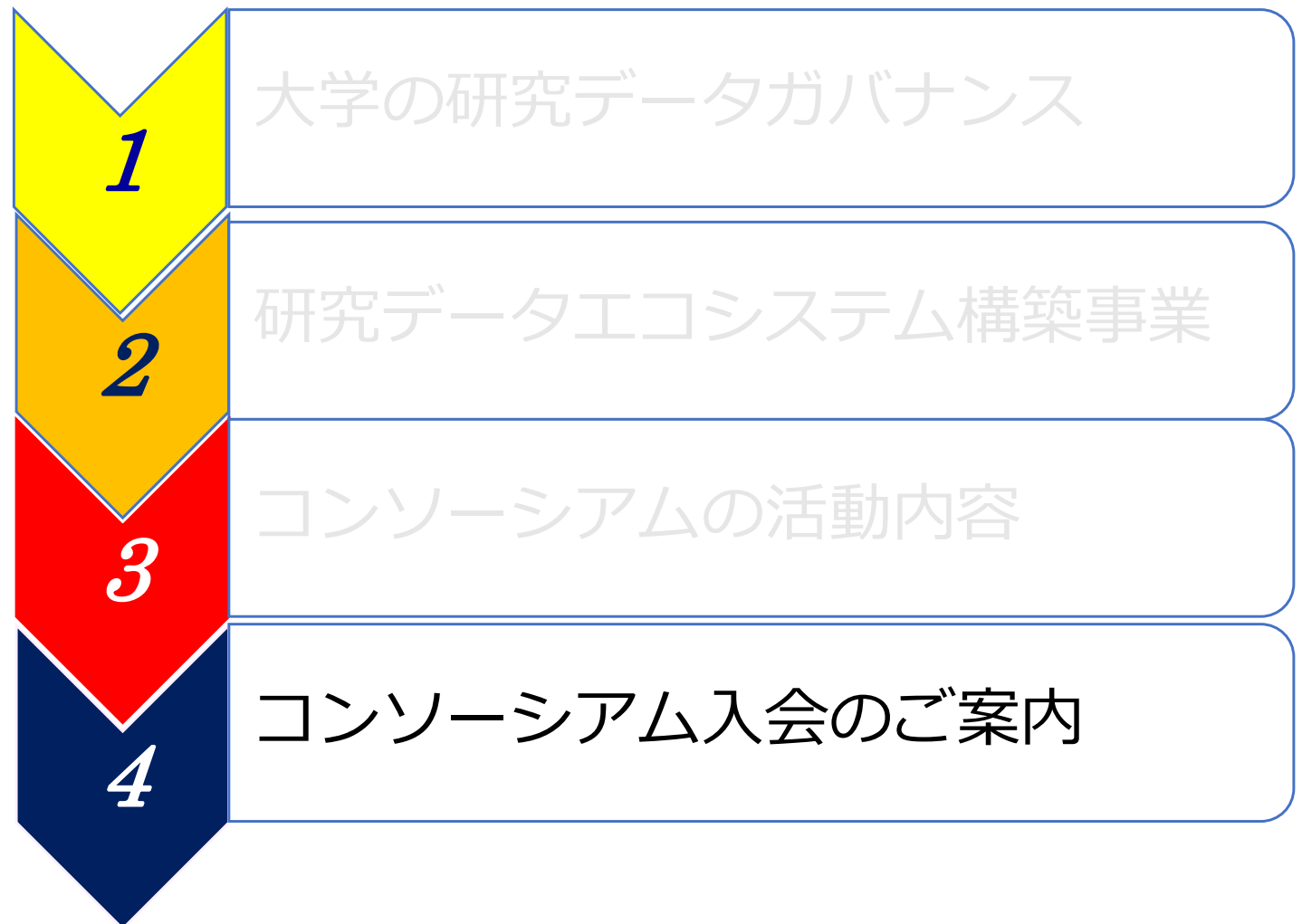
2023/12/13-15@名古屋

【企画セッション×3】12/15（金）同一セッション会場で連続開催

- RDM推進のための学内体制を考える：ポリシー策定・DMP作成・研究データ公開・グリーンOA等（RDM部会企画）
- AI・クラウド時代においてICT管理者・利用者の負担低減を可能とする研究データ管理（RDM部会企画）
- **研究データエコシステムの構築に向けた地域コンソーシアムの形成**
（実行委員会企画・**コンソーシアム共催**）
 - 北陸地区（金沢大学）と合同で実施

事例報告の内容

- 研究データエコシステム東海コンソーシアムについて



研究データエコシステム東海コンソーシアム への入会

【会員】

- **正会員**：大学，高専，研究所等の学術機関
- **準会員**：上記学術機関に属する部署
※ 東海地域に限定しません

【会費】 不要

※ 「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」の名古屋大学への配分予算でコンソーシアムを運営します

【入会方法】（随時受付，まずは**11/末日**を区切りに）

- **入会申込書**をメールでお送りください
 - 詳細は、名古屋大学情報連携推進本部のページ
(<https://www.icts.nagoya-u.ac.jp/>) から

RDMの推進に関心のある学術機関ならびに部署の
皆様のご入会をお待ちしております